

学校番号	23	学校名	静岡県立掛川特別支援学校	記載者	山崎かおる
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア 専門性	(ア)教育的ニーズの的確な実態把握と目標の達成  (イ)つながりのある支援と指導の充実	・「個別の指導計画の目標を適切な指導により達成できた」と答える教職員 100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<u>すまいるファイル</u>」などで個別の支援計画が保護者と教員で共有されていて、課題に沿って活動がなされていると感じています。（伊藤委員）</li> <li>・先生方が児童生徒一人ひとりと丁寧に関わりを持ちながら計画をたてて、実践されていることがふれ活を通して感じられます。（田辺委員）</li> </ul>
		・「12年間の系統性や学習指導要領等の内容に沿って見直した年間指導計画と日々の授業改善ができた。」と答える教職員 100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価はAでいいと思いますが、10人の方が否定的な回答をしている点は、深堀りしておいたほうがいいと思います。<u>難しい課題だ</u>と思いますが、<u>一貫指導だからこそ取り組める</u>こともあるのではないかと思います。（私も小中高一貫校出身です）（田中委員）</li> <li>・12年という長い学校生活において、高い専門性をもって将来の自立に向けて先生方が連携して指導されていることが、各学部の児童生徒の様子からとても感じられます。（田辺委員）</li> </ul>
		・「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善できた」と答える教職員 100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導要領に示された、深い学びをどのようにとらえ指導しているか、現場の雰囲気分かった。（鴻野委員）</li> <li>・<u>コミュニケーションスキルや自らの意思決定を適切に伝えられる手段や方法の学びを学校全体で取り組んでいる</u>ことが活動を通して伝わってきます。（田辺委員）</li> </ul>
		・「児童生徒がICT機器を活用した」と答える教職員 100%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中でiPadを使っている姿を見たことがあります。<u>音楽を流す、調べ学習に使うなど多岐に渡って使用されている</u>と感じます。（伊藤委員）</li> <li>・「A」にするには何が課題なのかを追求することが大事。（横山委</li> </ul>

					員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>I C T機器活用はあくまで効率化のための手段。目的化しないよう、また先生方の過度の負担とならないよう、ご配慮願います。(田中委員)</u></li> </ul>
イ 安全・安心	(ア)人権に配慮した言動や行動の徹底  (イ)命を守る、体制の整備と緊急対応の実践力強化	・「教職員一人一人が人権に配慮した丁寧な態度や言葉遣いができた」と答える教職員 100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生方の対応はとても丁寧だと感じています。障害のある子供の親としては、関わる方の態度に敏感になりがちですが、子供の様子を見ていて先生を信頼していることがわかります。(伊藤委員)</li> <li>・ うまくいかなかった、できなかった先生方が一人で悩みを抱え込まぬよう、ケースを拾い上げ、対応策・解決策を一緒に考えてあげてください。(田中委員)</li> <li>・ <u>子ども達は大人の何気ない行動言動をよく見ていて、それを模倣しますね。私自身も気を付けていますが普段から意識することは大切だと思います。</u>ポジティブなリフレーミングは子ども達の意欲にもつながるので今後も引き続き実践していきましょう。(田辺委員)</li> </ul>
		・「ヒヤリハット等の情報を環境整備や再発防止に活用した」と答える教職員 100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>手狭になってきて、物があちこちに置かれているのを見ると危険を感じることもあります。</u>(伊藤委員)</li> <li>・ 具体的な改善策をまとめていくといいと思います。(横山委員)</li> <li>・ <u>皆さんが迷うことのない、守りやすいルールや連絡体制を構築してください。</u>弊社製造現場では結局ホワイトボードに手書き、読んだ人は印をつける、が一番速くて確実だという結論を出しています。(田中委員)</li> <li>・ 全職員に周知を図り、意識を高め再発防止に取り組んでください。(水野委員)</li> </ul>
		・ マニュアルを教職員が理解し、「有事の際の動きが分かっている」と答える教職員 100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マニュアルの修正がなされて、よりよいものになっている姿勢が良い。(横山委員)</li> <li>・ <u>全員がそろわないことを想定し、自分だけでなく、全体の役割を理解しておく必要もあると思います。</u>マニュアルには各役割のゴール(ここまでできればOK)</li> </ul>

					<p>も示せるといいですね。(田中委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生からお話があったように有事の際には他機関との情報、対応の共有・連携が不可欠だと思います。今後活かせるよう考える機会になりました。(田辺委員)</li> </ul>
ウ 連 携	(ア)よりよく生きるための関係機関等との協働強化。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに応じた関係者会議や学習会を設定したり、情報共有したりして、「必要に応じて保護者や関係機関と連携して取り組んだ」と答える教職員 90%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議なども開かれていて、困窮家庭にも寄り添っている様子が窺えます。ただ、学校という立場から家庭内に踏み込むことはできず、社会的に孤立してしまう家庭は多いと思います。また、学校卒業後の困窮家庭について、関係機関への適切な橋渡しをお願いしたいと思います。(伊藤委員)</li> <li>・掛川市ではイェナプラン教育を取り入れインクルーシブな学校を目指した学園化構想を進めています。個に応じた支援をどのように実践していくかは課題の一つです。<u>今後もセンター的機能と高い専門性を地域の学校にも共有して頂きたいです。</u>(田辺委員)</li> </ul>
	(イ)地域資源(人・もの・こと)への深い理解とそれを活かした実践や発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の専門家(看護師、SC)や校外の専門家(PT、OT、学校医、医ケア指導医相談員等)の活用が「有効であった」と答える教員の評価 90%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立活動」は特別支援学校の「肝」です。「自立活動課だより」の発行はとても良いと思います。(横山委員)</li> <li>・児童生徒の将来を見据えて、<u>出来ることを増やす、身近自立を促すことは本人にとっても家族や地域にとっても大切だと実感しています。</u>そのうえで出来ないことでも「こうすれば出来る」や「こういう時はこうする」といった知識を地域の方達にも是非教えていただきたいです。(田辺委員)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあい活動を実施し、地域資源(人・もの・こと)を利用できた」と答える教職員 100%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>希望の丘マルシェへの参加など、希望の丘の中での連携がより一層深まったと感じます。</u>(伊藤委員)</li> <li>・<u>掛川特別支援学校の立地を生かした地域との連携が素晴らしい。</u>(鴻野委員)</li> <li>・今年度もとても分かりやすい実践報告書を作成して下さいありがとうございます。ふれ活の</li> </ul>

					準備、実施は先生方にとって大変なこともあると思います。いつもありがとうございます。卒業後に地域の方達が「あ、〇さん行ってらっしゃい！」と、一個人として交流できるような関係性が出来るように地域の一人として私自身も出来ることを先生方と取り組んでいきます。(田辺委員)
		・地域の方々に向けた作品展や日頃の学習活動を公開して、「児童生徒の理解啓発につながった」と答える教職員・外部評価100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>地域販売会や図書館、信用金庫での作品展など、地域で学校のことを目にする機会は増えたと感じています。(伊藤委員)</u></li> <li>・今年度は10周年ふれあいフェスタで、企画準備当日まで本当に大変だったと思います。子ども達の生き活きとした表情、姿にとっても感動しました。作品展や学習活動の公開では、多くの方が関心を持っていらっしゃいます。Instagramでリアルタイムに情報の受信が出来るのでとても良いと思います。<u>クローズドからオープンへ、そういった良いイメージを感じます。個人情報やリテラシーの配慮もしながら、今後も継続していただきたいと思います。(田辺委員)</u></li> </ul>
エ チ ーム	(ア)働きがいのある職場の充実	・「教職員が協働することで、より良い成果を目指して、業務に関する課題を解決できた」と答える教職員100%	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>多様な働き方が増える中で、一部の方の負担が増え、労働時間が長くなっているのではないかと懸念しています。業務内容を精選することを望みます。(伊藤委員)</u></li> <li>・報告を耳にして、もう十分だと感じますね。この成果に自信をもって進んで欲しい。(鴻野委員)</li> </ul>